

## みろくぶつぞう 弥勒仏坐像

木造 漆箔・彩色  
像高 147.3cm  
平安時代(10～11世紀)  
奈良 弥勒寺所蔵

像高150cm弱、半丈六の大像である。奈良県大和高田市土庫(どんご)の弥勒寺本堂に本尊として伝来した。これだけの大像であるにもかかわらず、両脚部を含めた像のほぼ全容を、サクラかと思われる広葉樹の一材から彫成し、像内を内刳している。年輪をあまた重ねた古木を用いた彫像といえよう。



重量感のある造形だが、ロープ状の表文を整然と配する形式や、小さめの目鼻を顔の中央に寄せて表す点、足首を膝頭より奥にぐっと引くところなど、平安時代中期の作風が顕著である。

平安時代の弥勒仏の遺例をながめると、右手は掌を前に向けて立てる施無畏印とし、左手は仰掌して持物を執らない与願印とする像が比較的多いが、一方で左手を膝に伏せる触地印のものもある。

弥勒寺像が現在左手に載せる宝塔は弥勒の標識であるが後補のものなので、やはり左手は与願印か触地印かのどちらかであった可能性がある。

本像の表現上きわめて珍しいのは、耳朶が網目状に表されていることである。經典上の典拠が不詳だが、類例に奈良・法隆寺新堂の薬師三尊のうちの中尊像があげられる。新堂像は、いま薬師如来の持物である薬壺を執るが、これは後補であり、かつ新堂の本尊は弥勒仏であるとする文献も存在する。とすれば、あるいは耳朶を網目状に表現することと、弥勒という尊格との間には密接な関係がある可能性もあり、今後の検討を要しよう。

岩田茂樹(当館学芸部長補佐)

◆なら仏像館にて、10月4日より特別公開

## 名品展の みどころ

## 重要文化財 鳳凰戩金経箱

木製 黒漆塗 鎗金 螺鈿(後補)  
縦20.2 横39.3 高25.3cm  
中国 元(14世紀)  
当館所蔵



蓋の四周に大きく削面を取り、底の深い合口造りの箱で、中国・元時代に製作された經典を納めるための箱である。蓋甲には双鳳凰文、身側面のうち、長側面に双孔雀文、短側面の一方に双鸚

鵡文、もう一方に頭光を負う4名の比丘形を鎗(戩)金で線描している。身の短側面とその上の蓋鬘には、合口部を挟んで「伍」「周」、「貞」「貳」の文字が刻まれる。箱の各稜部、合口部の縁に見られる細かな螺鈿は後補と考えられる。

鎗金とは、漆面に文様あるいは図案を線刻し、その彫溝(刻線)に金箔を押し込んで金線を表す技法で、わが国では沈金と呼んでいる。同技法によって装飾された同形の箱が、本品のほか広島・浄土寺所蔵のものなど9例ほど知られる。本品には銘文は見られないが、その9例のうち4例に中国(元時代)の延祐2年(1315)の年紀と杭州で作られたことが蓋裏に記されており、本品も元時代(14世紀)に作られたと見られる。本品の形状に注目すると、わが国の経箱と比べて長方形で底の深い作りであるが、当時の大藏経などの装丁の多くは折本装であり、經典を重ねて納めるためにこのような形状に製作されたと考えられる。また類例の多くには舶載後に取り付けたと見られる紐金具が付くが、本品にはない。京都・大徳寺所蔵の五百羅漢図(重要文化財、南宋時代)に描かれた経箱や中国での出土品を見ると紐金具はなく、本品のほうが本来の姿に近いことが分かる。

永井 洋之(当館学芸部研究員)

◆西新館 名品展「珠玉の仏教美術」にて、12月6日～25日に展示

### 開館日時(10月～12月)

#### ■開館時間

#### 平常時

午前9時30分～午後5時  
(10月28日までの毎週金曜日と、12月17日(土)は午後7時まで)

#### 正倉院展会期中(10月29日～11月14日)

月曜日～木曜日:午前9時～午後6時  
金・土・日曜日、11/3(祝):午前9時～午後7時

※いずれも入館は、閉館の30分前まで

#### ■休館日

毎週月曜日(ただし10月10日(祝)は開館し、翌11日(火)は休館)、1月1日(日・祝)  
※正倉院展の会期中は無休

### 観覧料金

#### 第63回 正倉院展

	一般	高校・大学生	小・中学生
個人(当日)	1,000円	700円	400円
団体・前売	900円	600円	300円
オートムレイト	700円	500円	200円

※団体は20名以上です。※前売券の販売は10月28日(金)まで。  
※オートムレイトは、閉館の1時間30分前より販売する当日券の料金です。  
※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

#### 特別陳列・名品展

	一般	大学生
個人	500円	250円
団体	400円	200円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。



〔交通案内〕近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので、最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。

